京都深掘り

―広隆寺の弥勒菩薩像“指折り事件”

この事件は昭和 35 年（1960）8 月 18 日の出来事で新聞は大騒ぎとなり世界各国にニュースが飛び回ったそうです。

弥勒菩薩像は、今、祀られているのと同じ霊宝館に安置されていましたが、午後 1 時頃、弥勒菩薩像の薬指が折れてなくなっているのを監視員が気づき大騒ぎとなりました。

その日の夕刻、一人の学生が自分が指を折ったと警察に自首しました。というのが事件の概要です、

仏像の指がたった 1 本折れただけというのに大騒ぎになったのはやはり、広隆寺の弥勒菩薩像が我が国を代表する国宝で、美しく、魅力あふれる仏像の傑作として、誰もが認めるところにあったのでしょうか

では歴史的に見ていつ頃から人気が出てきて超有名になったのでしょうか。この答えは意外と簡単に出ました。それは、飛鳥園・小川晴陽が撮った美しい写真の力によるところが大きかったそうです。大正末年頃の話です。

大正 13 年（1924）に飛鳥園発行の古美術研究誌「仏教美術」の創刊号の巻頭にこの写真が掲載され、これが広隆寺の弥勒菩薩像が広められ、人気を博するようになる大きなきっかけになったと言われています。ドイツの哲学者カール・ヤスパース（1883~1969）が絶賛したのは有名な話ですが、ヤスパースはこの像を実際に見たのではなくこの小川晴陽の写真を見て語った話だそうです。小川晴陽こそ、広隆寺の弥勒菩薩像を広く世の中に広め、数多くのフアンを創り出した立役者といえるようです。

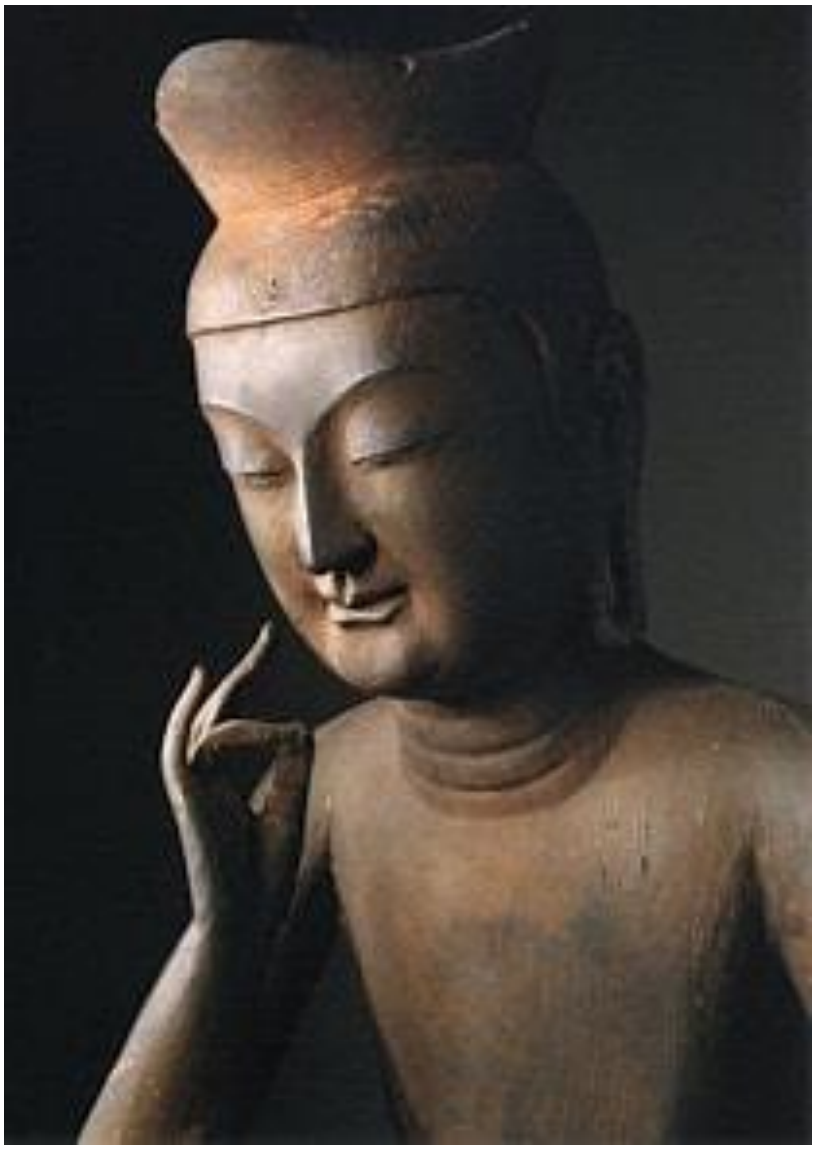
新聞報道では、あまりに有名で美しい国宝・弥勒菩薩像の指が折れたという事件で各紙大々的に報道しましたが、その内容は各紙によって微妙に違っていたように思われます。

① 18 日午後 1 時頃友達と二人で弥勒菩薩像を見に来て監視員がいなかったのでイタズラ心が起き、台に上がったとき、左頬が像の指のあたり、ポトリと落ちた。驚いて 3 つに折れた指を外に持ち出し捨てようとしたが思い直して像の足下に置いて逃げた。心境にも触れています「弥勒菩薩さんに“ほおずり“したことを友達に自慢するつもりだった」像を見て「これは本物かな」「きたなくてほこりもついていたようで期待外れだった」そして「あのときの心境は今、自分でも説明がつかない」と報道しています

② また別の新聞では、折れた指をポケットに入れて持ち帰った。その後、当人が川端署に提出したので、これを太秦署が受け取り保管し、近く京都府教委文化財保護課が修復を受け持つ、と、報道

③ また別の新聞では川端署へ当人が折れた指さきの破片 2 ヶを持って自首した。当人は署にて「折れた破片はもって嵐山に逃げ、途中で道ばたに捨てたが引き返して拾った」署では帷子の辻付近で残りの破片を全部回収した。

事件は歳月とともにだんだんと風化しつつあります。そんな中、現在この事件は次のごとく定着したかに見えます
―弥勒菩薩像を拝観した一人の学生がその美しさに見とれ思わず壇上に駆け上がってキスしようとし、この像の大切な薬指をおってしまった。この学生もそんな謎の美しさをこの弥勒菩薩像に見出したのかもしれませんー
「弥勒菩薩像のあまりの美しさに見せられて」なんとロマンティックに響く言葉ではないでしょうか・・・

親睦委員　阿部たかじ

小川晴陽撮影　広隆寺弥勒菩薩像